

大野市総合計画・総合戦略推進会議 第1回移住定住部会 議事メモ

日時 令和4年8月18日(木) 午前10時～12時

場所 結とびあ 201・202号室

○出席者

委員：8名(欠席なし)

その他：4名(地域文化課職員、政策推進課職員)

1 開会

事務局より開会

2 委員の紹介 ……名簿参照

事務局より説明

3 部会長あいさつ

- ・自分もUターンで大野市に戻ってきた。都市部は治安の面で心配があるが、大野市は、その点は安全安心である。
- ・市は移住施策を進めているが、転入者よりも転出者が多い状況。移住を加速させて持続可能な大野市政につなげていかなければならない。
- ・皆さんから多くの意見をいただきながら本部会を進めていきたい。

4 説明事項

(1) 部会の進め方について ……資料1

資料1に基づき事務局より説明

(2) 大野市の取り組みについて(課題・現状の把握) ……資料2

資料2に基づき市地域文化課より説明

【質疑応答】

○創業支援情報の充実について

委員：令和3年度に33人が市の支援を受けて移住してきたとのことであるが、その中で①市内で起業した人、②市内企業等に就職した人、③市外企業等に就職した人の内訳は。

担当課：33人のうち、移住支援金を活用した人に限定すると、多い順から②、

①、③となる。

委員：県には UI ターン移住創業支援事業助成金があり、国にも同様の創業支援があるので、これらもホームページで紹介すると良いのでは。

担当課：市の移住窓口で就業の相談をしてくる人は少なく、住まいや支援金の相談がほとんどである。一方で、県の「ふくい暮らしはたらくサポートセンター」では、就業の相談がほとんどであり、サイトの登録者に創業や転職の情報を発信している。役割を整理して、県が就業の情報を、市が住まいや移住支援金の情報を充実させている。

委員：県の UI ターン移住創業支援事業助成金に市の移住支援金を合わせて最大540万円が支給される。知らなかった移住者がいたので教えたことがある。市でも創業支援の情報を充実させると良い。

部会長：県としっかりと連携して移住者に情報が行き渡るようにされたい。

○シニア層からの移住相談について

委員：移住定住のターゲットを子育て世代としているとのことであるが、シニア世代からの相談はあるのか。

担当課：子育て世代からの相談が最も多いが、親の介護や定年後の暮らしを理由にシニア世代からの移住相談も増えてきている。シニア世代の中では、IターンよりもUターンの人からの相談が多い傾向にある。

5 ワークショップ ……資料3

資料3に基づいて事務局より説明後、2班に分かれて2つの検討テーマに関して意見交換を行った。

<検討テーマ>

- ①移住の関心を高めるための情報発信方法
- ②移住関心層の頻繁な訪問、長期滞在につなげる方策

委員からの意見は別添「ワークショップ意見一覧」参照

6 その他

事務局より事務連絡

7 閉会

事務局より閉会

>>終了